

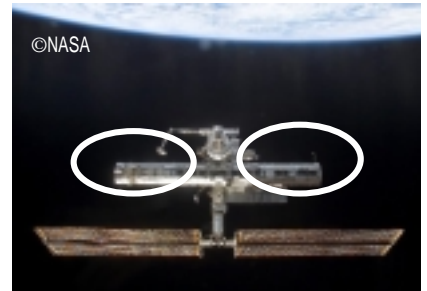
“今週の国際宇宙ステーション（ISS）”

**最初のISS構成要素打上げから1572日経過しました
第6次長期滞在クルーのISS滞在は105日経過しました**

ISS動向

バウアーソックス宇宙飛行士、ペティ宇宙飛行士は3月4日、ISSのS1トラスの点検をロボットアームを用いて行いました。この点検ではトラスについているラジエターの配管接合部の断熱カバーやS1トラスとS0トラスの結合部分の点検などを行ないました。また3月6日にはS1トラスの反対側に設置されているP1トラスについて、同様の点検を行いました。

科学実験については、無重力状態での人間の下半身の筋肉・関節の動きを調べる米国の実験や、ロシアの植物栽培実験などが継続されています。



S1トラスとP1トラス
(左側がP1、右側S1)

“トピック”

STS-99のデータで恐竜絶滅？のクレーターを確認

毛利宇宙飛行士が2000年2月に搭乗したSTS-99ミッションではSRMと呼ばれる、地形の3次元データを収集しました。この飛行で得られた地形のデータはまだ解析が続けられていますが、このほど、メキシコ・ユカタン半島にある隕石か彗星が衝突したと見られるクレーターの跡が確認されました。

このクレーターはメキシコのチチュルブにあるもので、ここに隕石か彗星が落下した影響で6500万年前に恐竜が絶滅したのではないかと、この説があります。

詳しくは下記のNASAによる発表をご覧ください。

http://www.nasa.gov/HP_news_03096.html



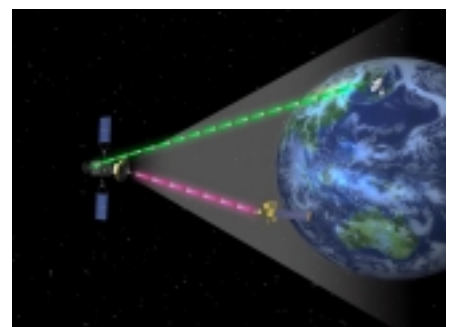
公開されたユカタン半島の画像

データ中継技術衛星「こだま」、初のデータ中継に成功

宇宙開発事業団（NASDA）が昨年9月10日に打ち上げたデータ中継技術衛星「こだま」が初めて実際に衛星から送信されたデータの中継に成功しました。相手の衛星は同じく昨年12月14日に打ち上げられた地球観測技術衛星「みどり」で、みどりが観測したインド付近の映像を中継しました。

こだまはISS等比較的低い軌道をまわる人工衛星からのデータを地上に中継するための衛星で、こだまを用いることで衛星と地上との交信可能時間を大幅に延ばすことが可能になります。

「きぼう」打上げ後はきぼうからのデータ送信にこだまが用いられ、きぼうの運用に重要な役割を果たすことになります。



こだまによるデータ中継イメージ

宇宙開発事業団は2003年10月1日に独立行政法人宇宙航空研究開発機構に移行します。

問い合わせ先: 宇宙開発事業団 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://jem.tksc.nasda.go.jp> Eメール kibokoho@nasda.go.jp

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。